

「臨床心理学」編集委員会(編)
臨床心理学
「特集 必携保存版 臨床心理学実践ガイド」

日本の心理療法小史
- 臨床心理学の定着と普及の過程 -

長谷川明弘
東洋英和女学院大学

岩壁 茂(責任編集)・「臨床心理学」編集委員会(編),
臨床心理学「特集 必携保存版 臨床心理学実践ガイド」,
第17巻第4号(通巻100号),
pp.564-565, 東京:金剛出版,
2017年7月10日.

注：金剛出版から2017年7月10日に発刊された臨床心理学「特集 必携保存版 臨床心理学実践ガイド」の中の「日本の心理療法小史－臨床心理学の定着と普及の過程－」の草稿である。出版された内容とは若干異なっている。出版された書籍を購入いただけたら幸いである。

日本の心理療法小史—臨床心理学の定着と普及の過程—

長谷川明弘(東洋英和女学院大学)

~~はじめ~~臨床心理学のはじまり

臨床心理学は、米国でウィットマー(Witmer, L.)が1896年に世界最初の心理学的クリニックをペンシルベニア大学に設置し、臨床心理学(Clinical Psychology)という呼称を初めて用いて産声を上げた。その後1945年に第二次世界大戦が終戦を迎えて以降米国を中心にして著しく発展して現在に至る。ウィットマーは、ドイツのライプチヒ大学にて学問としての心理学の創始者であるヴント(Wundt, W.M.)のもとで1892年に博士号を得ている。

日本国内では、1888年に東京帝国大学の哲学科心理学講座の初代教授となった元良勇次郎が、1912年に54歳で急逝するまで活躍して後進を輩出した。福来友吉は、元良から指導を受けて催眠研究で博士号を授与され、1908年に東京帝国大学の助教授となった。福来の研究領域は、現在でいうところの異常心理学であり、将来は臨床心理学領域での活躍が期待されていた。その頃に超能力者出現という新聞報道が国内各地から発信され、要請に応じて出向いた福来が透視や念写の検証実験を行って、その現象の存在を肯定する発言をした。一方で様々な条件が重なって第三者による透視や念写といった現象の再現性が担保されず、学者としての立場が揺らいだ福来は、1913年に東京帝国大学助教授の職を追われた(俗にいう千里眼事件)。その後、日本の心理学は臨床心理学よりもむしろ実験心理学が主流となっていった。

以上を踏まえて、本論の目的では、臨床心理学の一分野である心理療法が第二次世界大戦後から2017年までの期間に日本で定着していった経過を取り上げていくことである。

日本における心理職国家資格化までの道程—心理療法の普及の伏線—

第二次世界大戦後の1951年に、米国のLloydを団長とする6名の専門学者が、学生助育サービス(SPS:Student Personnel Services)を紹介するために来日。心理療法を高等教育機関で行う学生相談制度が整備され、各地の大学等に設置されて現在に至る。

1960年代以降の日本の臨床心理学界を牽引した成瀬悟策、河合隼雄、佐治守夫は、それぞれ九州大学、京都大学、東京大学で教鞭を執った。彼らは心理療法の三大学派とされる精神分析(ユング心理学)、人間性心理学、行動療法(行動科学)の指導を行って教え子を多く育て心理療法の普及に努めた。

成瀬悟策は、視知覚の心理学実験を行う一方で、催眠の公開実演を目の当たりにして催眠という心理現象に魅了された。千里眼事件のこともあり、在籍していた東京教育大学の教授達から催眠研究について咎められながらも催眠研究を続け、その後、九州大学教育学部で教鞭を執り(1969年教授就任)、1960年代半ばから臨床動作法を体系化し現在に至る。また成瀬は、1951年頃に催眠を用いた夜尿症の事例報告を応用心理学会で行い、それが日本の臨床心理学の最初となる事例報告となった。また臨床心理士の認定番号1番を持つが1番なのが成瀬でもある。成瀬は、行動科学を基礎とした研究と実践を行ってきた。

河合隼雄は、京都大学理学部で数学を専攻したあと、数学担当の教員として高校に勤務して教育相談に従事する中、ロールシャッハテストの書籍の著者であったクロッパー(Klopfer B)へ疑問点を問い合わせたことをきっかけにして1959年に米国へ留学した。その後、クロッパーの勧めでスイスにあるユング研究所へ留学。1965年に日本人初のユング派分析家資格を得て、主に京都大学教育学部にて教鞭を執った(1975年教授就任)。河合は事例研究の重要性を指摘し、それは現在も専門職養成に組み込まれている。また河

合は広く一般向けの書籍を執筆したり講演活動を行って心理療法の知名度を上げた。

佐治守夫は、東京大学を卒業後に国立精神衛生研究所厚生技官として勤務し、スタンフォード大学での留学の後、母校である東京大学にて教鞭を執った(1969年教授就任)。佐治は、ロジャーズ(Rogers, C.)が提唱したクライエント中心療法の実践と普及に努めた。

1982年に日本臨床心理学会から心理職の国家資格構想を持った理事が独立し、成瀬悟策が初代理事長となって日本心理臨床学会を創設した。1988年には日本心理臨床学会を中心とした関連12団体の協賛で「日本臨床心理士資格認定協会」が設立された。続く1989年に河合隼雄が初代会長となって「日本臨床心理士会」が発足し、~~た。~~1990年代になって「臨床心理士」を大学院で養成することが主流となった。

臨床心理士という心理学専門職の民間資格が発足した1990年前後になると、21世紀は心の時代になると謳って心理学が大きく注目され、「それいけ!!ココロジー」というバラエティ番組がテレビで放送されるなどした。

さらに1994年11月に愛知県で発生した中学生によるいじめ自殺事件を大きな契機として、1995年度から当時の文部省がスクールカウンセラー事業を始めた。また1995年1月の阪神淡路大震災に対する支援活動、その後の災害や犯罪事件や事故の報道の中で臨床心理士の活動が取り上げられるようになった。

社会的認知の高まりと共に関係団体間の紆余曲折の議論を経て2015年(平成27年)9月9日に公認心理師法が成立し、同年9月16日公認心理師法が公布された。2015年は、日本において50年にわたる心理学専門職の国家資格化が叶って、心理学・臨床心理学を基盤とする専門職にとって新たな扉が開かれた年である。

2018年4月から公認心理師の養成が大学で始まるにあたり、カリキュラムや受験要件等の整備が行われている。

~~おわり~~公認心理師が活躍する時代に向けて

日本では、明治期に社会的に注目を浴びた千里眼事件によって臨床心理学の普及が遅れたが、第二次世界大戦後の学生相談機関の設置、1990年代半ばからのスクールカウンセラー事業、災害や事件・事故~~の~~の被害者への支援を通じて臨床心理士が行う心理療法が世間に広く知られるようになった。

19世紀末から20世紀初頭のウィットマー、福来友吉が活躍した国内外の臨床心理学の黎明期から、その専門家の養成・訓練に科学的な素養の訓練が必要不可欠であった。米国を始め多くの臨床心理学~~の~~専門職は、「科学者-実践者モデル」を適用した大学院での養成課程で訓練を受けて輩出されている。公認心理師が大学院での養成を基本路線としている以上、科学的な素養を持って実践活動~~を~~適切に~~を~~評価することが可能で、かつ個人内に留まらず社会に向けて心理療法を含む適切な実践活動が行える専門職の養成を願いたい。

主要文献

長谷川明弘 2015 臨床心理学の歴史—催眠を基軸として—,東洋英和女学院大学心理相談室紀要18巻(2014年度), pp56-66

佐藤達哉 2002 日本における心理学の受容と展開 北大路書房

下山晴彦 2001 日本の臨床心理学の歴史と展開 下山晴彦・丹野義彦(編) 講座 臨床心理学1 東京大学出版会,pp51-72